

両生類

神田智衣

窓のない部屋で横になっている

頭が痛むのは本の余白だけがはっきり見えてしまうからで

窓のない部屋には大きな本棚が三つあるのだった

横並びのいちばん右の棚には大判のものを入れる

中にオレンジの表紙（素材はビニール）

タイトルはゴシック体の白抜きで

いつもよりずっと小さく見えるのが不思議だった

目を強くおさえる

視界が白っぽくなって手を離すと

やっぱり小さいままで

その小ささは相変わらずこたえるけれど

部屋からは出られない

頭の痛みが取れて日光を直視しても

反射的に涙が分泌されることもなくなるまでは

といっても私の目はすっかり乾燥しきっていて

もう粘膜とは呼べないようになっていた

それは例えば

サンショウウオだと思って抱き上げた生き物が

大きなトカゲだった時の感覚に似ていて

両手でつかみ上げた生き物にやけどをさせなくてすんだことに

安堵するけれど

土がこぼれるのが気になって

手を放したくなった

それと同じように頭に触る

髪も湿っているし

指の先にも水滴がある

体のどこにも乾燥がないことを今なら信じられるかもしれない

じゃあ目が痛むのは？

と気になって

目を閉じて上下の瞼の境に爪で触れる

それでも見えてしまったものがちらついて

部屋の中の縮尺は相変わらずおかしくて

ほんとうは部屋から出ようとすれば出られたのかもしれないけれど

外が明るいのか暗いのかもわからなくなっていたのだった

思い切って立ち上がろうと思いつながら

すでにしゃがみこんだ後なのだった